

平成 20 年度 第 2 回長野市総合計画審議会 会議録

日時 平成 21 年 3 月 19 日 (木) 15 時 00 分 ~

場所 第 2 庁舎 10 階 講堂

議事

(1) 重点施策の取組状況及び今後の展開について事務局から説明(省略)

(2) 特定課題プロジェクトの進捗状況について事務局から説明(省略)

・「子育て・子育て環境の整備」の放課後子どもプランについて、保護者・学校は進めていきたいという希望があるにも関わらず、地域を巻き込んだ取り組み方が難しく、なかなか進まないということで、行政のフォローがもっと欲しいという意見がある。

放課後子どもプランの趣旨が、地域の子どもは地域の皆さんで育てていくということで、現在、指導主事を中心に各運営委員会を回って、場合によっては、住民自治協議会や区長にも説明をしているという状況。地域の皆さんには色々な形で関わっていただき、この放課後子どもプランを支えてもらいたい。

・善光寺の世界文化遺産登録について、「引き続き調査検討を進める。」ということだが、平成 23 年度目標はどの程度を指しているのか。また、県内の文化遺産にしようと掲げている市町村に対しての対応は。

善光寺の重要伝統的建造物群の保存地区の選定と世界遺産登録は全く別の問題であるが、善光寺の門前の文化遺産を重要伝統的建造物群の指定を受け、その先に世界文化遺産の登録があると考えている。

暫定リストへの追加登録は、長野市は選に漏れたが引き続き調査研究を進めていく

・郊外の優良農地等を全面的に開放して市街化区域にしてしまうということがとても残念。

「拡大を抑制する」ためにどのようなことを考えているのか。

行政では、大規模な開発など抑制している。人口の増加に対する施策を進めてきたが、平成 12 年の都市計画マスタープランで初めてコンパクトシティを打ち出した。当面の間、農振農用地に対しての大規模開発は行わない方針である。

・この半年の間に社会的財政状況がひっ迫し当然長野市の税収等にも響くが、そのような状況の中で見解があるか。

平成 20 年度の市税の調定状況ですが、あまり変化は見えてきていない。しかし、当然、税収が落ち込むということも頭に入れた中で予算を考えたい。

税収を含めた市の状況が気になるが、一律縮小では市の特色が出しにくく、重点施策、

優先的な予算配分という選択と集中が必要である。

・農業の関係では、高齢化等によって明るい傾向が見えにくいですが、農業公社で行う援農隊等をより充実してもらいたい。

太陽光発電について、個人住宅等ではどのようなになっているか。

農業の関係では、担い手確保において、高齢化・生産の面で難しい状況。農業を維持していくために、家族農業には集落で対応し、また農業公社では、農地を貸し出す農地の流動化と法人化にシフトする事業を展開している。

農業のお手伝いさんは、特にりんごの摘果作業等で確保できないこともあり拡大する予定で進めている。学生が行う援農隊も同様である。

一般家庭に対する太陽光発電の関係について、市では補助を継続して行っているが、国でも補助が復活した。長野市の補助制度は、国や県の補助とは別に補助を出す予定。平成 21 年度からは事業所へも拡大をする。

その他

ふるさと納税現在額について

・使い道などは、決定段階で寄付してくださった方や公に示すのか。

活用先については、決まった段階で広報ながのやホームページに掲載し、審議会でも報告する。